

News Letter

ニュースレター



名古屋銀行

2024年2月28日



「めいぎんポジティブインパクトファイナンス」の契約締結について ～豊田プレス工業株式会社のサステナブル経営をサポート～

名古屋銀行（頭取 藤原 一郎）は、豊田プレス工業株式会社（代表取締役 加古 浩史）と「めいぎんポジティブインパクトファイナンス」の契約を締結いたしましたのでお知らせします。

当行は、今後もグループ一体となり、銀行の既存のビジネスモデルに捉われない持続可能な収益機会の創出及び付加価値の高いサービスを提供し、さまざまなお客さまの経営課題解決を通じて地域社会とともに未来を創造してまいります。

記

1. 融資金額 50百万円
2. モニタリング期間 5年
3. 資金使途 事業資金
4. PIF 評価書 添付資料をご参照ください。

※株式会社格付投資情報センター（R&I）のセカンドオピニオンは、下記 URL をご参照ください。
<https://www.r-i.co.jp/rating/esg/index.html>

5. 豊田プレス工業株式会社の概要

代 表 者	加古 浩史
本社所在地	愛知県豊田市広久手町 5 丁目 24 番地
業 種	自動車部品製造業
設 立 年 月	1949 年 5 月

<記念盾贈呈式の様子>



豊田プレス工業株式会社
代表取締役 加古 浩史 氏

株式会社名古屋銀行
豊田南支店長 外山 洋介

参考：「めいぎんポジティブインパクトファイナンス」の取り扱い開始について

https://www.meigin.com/release/files/20220111meigin_PIF.pdf

以 上

ポジティブインパクトファイナンス評価書

～豊田プレス工業株式会社～



2024 年 2 月 28 日
株式会社名古屋銀行
法人営業部 法人コンサルティンググループ

はじめに

株式会社名古屋銀行は、豊田プレス工業株式会社に対し、めいぎんポジティブインパクトファイナンス（以下、めいぎん PIF）を実行した。

本件取組にあたって、株式会社名古屋銀行は国連環境計画金融イニシアティブ（以下、UNEP FI という。）が策定した「ポジティブインパクト金融原則」及び、環境省が策定した「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則り、豊田プレス工業株式会社の企業活動における包括的なインパクトを分析し、充実したサステナビリティ経営に向けた KPI を設定した。

借入人概要

借入企業	豊田プレス工業株式会社
所在地	愛知県豊田市広久手町 5 丁目 24 番地
従業員	69 人（2023 年 3 月）
売上高	2,424 百万円（2023 年 3 月）
事業内容	自動車部品製造業

融資条件概要

融資形態	証書貸付
融資金額	50,000,000 円
資金使途	運転資金
融資・モニタリング期間	5 年

目次

1. 企業情報	
①会社概要	
②沿革	
③社訓・企業理念	
2. 事業内容	
①加工手順	
②取扱製品	
③再構築事業	
3. その他の活動・CSR活動	
①健康経営の取組	
②カーボンニュートラルへの取組	
4. インパクトの特定	
①インパクトマッピングによるインパクト分布	
②インパクト分布図	
③国内のインパクトニーズ	
5. 測定する KPI	
①ポジティブインパクトの拡大	
②ネガティブインパクトの縮小	
6. インパクト管理体制	
7. モニタリング方法	
8. 総括	

1. 企業情報

①会社概要

会社名	豊田プレス工業株式会社
創業年月	1949 年 5 月
資本金	13,000,000 円
代表者	代表取締役 加古 浩史
決算日	3 月 31 日
従業員数	69 名
本社所在地	愛知県豊田市広久手町 5 丁目 24 番地
主要製品	サイドブレーキロッド パイプハンガー ブラケット シートベルト ヒンジ R/F クロスメンバー バンパーブラケット

②沿革

年月	概要
1949 年	上野プレス合資会社として創業
1949 年	豊田鉄工株式会社（旧挙母鉄工）と取引開始
1961 年	上野プレス（合）と早川プレス工業（株）が合併し 現広久手町に豊田プレス工業（株）を設立
1978 年	200 トン、250 トンブランキングプレスを順次増設
1983 年	工場 2 階部分を増築して溶接ラインを整備
2000 年	TPS を豊田鉄工の指導を受け、かんばん導入（材料発注システムも実施）
2000 年	豊田鉄工品質優秀賞を受賞
2006 年	豊田鉄工技術開発賞を受賞（からくり治具）
2007 年	豊田鉄工品質優秀賞を受賞
2008 年	豊田鉄工品質優秀賞を受賞
2010 年	豊田鉄工品質優秀賞を受賞
2015 年	豊田鉄工原価改善優秀賞を受賞
2016 年 7 月	代表取締役社長 加古敏雄が代表取締役会長へ、取締役 加古浩史が代表取締役社長へ就任
2019 年 9 月	健康経営宣言
2021 年 3 月	健康経営優良法人認定

③社是・企業理念

当社は、「着眼大局」を社是とし、役員から従業員の一人一人まで企業の理念が行き渡っている。
当社の HP においても、下記のことばで企業理念が綴られている。

「時代の変化と共にお客様の求めるニーズが変わり、その様な変化に対して自ら考え行動出来る人財を育成し、共に達成感を感じることが私の使命と考えています。今後も、失敗を恐れず挑戦し、従業員には「ここで働けて良かった」と思われる会社造りに励んでまいります。」

代表者のこのことばからは、変革をいとわず、自発的な発想に重きを置き、挑戦することで企業の価値を高めていくことが出来ること、またそのような人材を育成しながらともに成長することこそが当社の存在意義であるという思いが顕れている。

当社の未来ビジョンは、次の時代を見据えながら様々な取組を実施する。当社が取組む新たな設備の導入や商品の開発、カーボンニュートラルへの対応といった持続可能な社会への貢献度は今後も高まっていくと考えられる。



本社

2. 事業内容

当社は 1949 年の創業以来、プレス加工および溶接組付加工を中心とする自動車部品の製造を地元豊田市で行っている。取引先は豊田鉄工株式会社であり、様々なプレス加工機等を 100 台以上所有している。この加工機で細やかなプレスや複雑な加工が可能となっており、ハイブリッドや EV 車両への移行が予想される今日においても、自動車製造に欠かせないファクターを堅持している。

① 加工手順

当社の販売先は先述の豊田鉄工株式会社が大半を占めており、厚物、防錆、高強度材加工に実績のあるプレス製品をはじめ、難加工技術を駆使したパイプ、丸棒の加工・組み付けを行い、豊田鉄工株式会社からの信頼を勝ち取り、その技術力により新規受注から様々なプレス加工にも対応する。

生産準備として、新車の立上がる 1 年半前から新部品の準備を始め、プレス金型の不具合のチェックや精度出しを得意先の日程に合わせて行い、品質確保された部品が量産できるよう品質を確保することに重点を置いている。



生産準備

プレス工程においては、生産準備を基に、効率の良いプレスラインを構築することで作業行程を減らし、低コスト化を実現する。大小様々なプレス機により新型部品においても滞ることなく生産が可能で、部材である鉄の厚さは 0.6mm～6mm まで対応ができ、ブランキングプレスを主力として、受注先のニーズに合わせたプレス製品の生産を行う。



250 t ブランキング



200 t ブランキング



TDプレス

プレス加工された部品は、スポット溶接とアーク溶接を使い分け、組付けを行う。溶接する部品によっては、ロボットを採用することにより、省人化・効率化を図っている。

また、自社で安価に制作できる『からくり』によりナットスポット溶接の不具合品の流出を防止し、品質水準を保っている。具体的には溶接部品を『からくり』に通し、不具合品と良品を振り分けることで品質を確認する。電子制御がなく故障が発生しないため、累計 30 台以上で誤作動 0 の実績があり、新規部品に合わせて新たな『からくり』を制作している。これらの溶接及び組付けの工程は常に

見直しが図られており、メンテナンスや設備導入検討をしながらより効率的かつ高技術な生産ラインを目指している。これらの工程を経て、高品質な製品がトヨタかんぱん方式に従って出荷される。



スポット溶接



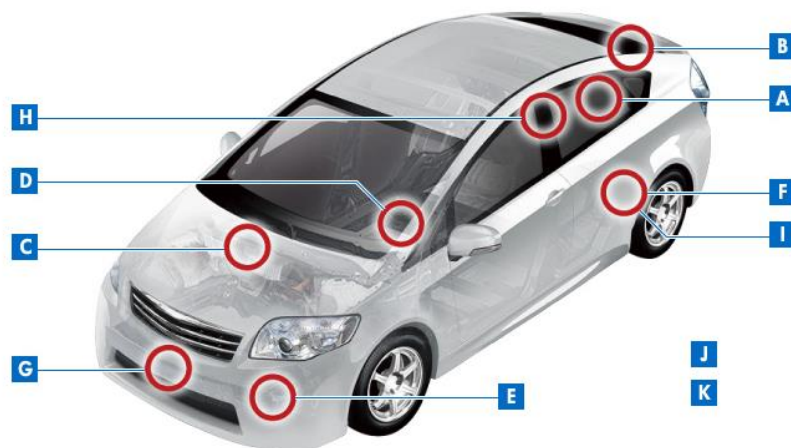
アーク溶接



「からくり」による品質確認

② 取扱製品

下記の図の通り、当社が取り扱う加工パーツは多岐にわたり、分厚い鉄板の加工も得意としている。多彩なプレス機械を使った加工と溶接を一貫生産できるのが当社の最大の強みとなっており、ブレーキ、エンジンといった内部製品からウインドウやバンパーなどの外部部品まで対応する。



A センターヒンジ



B フック



C エンジンブラケット



D パーキングブレーキロッド



E クラッシュボックス



F リアサスペンション ブラケット



G フロントバンパーステイ



H ルーフベルトアンカー



I ロアアームブラケット



J エンジンハンガー



K 丸棒・パイプ

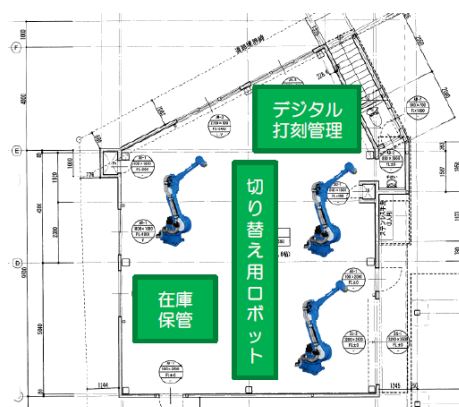


上記の様に様々な用途に対応できる技術力が、豊田鉄工からの大きな信頼を勝ち得ている要因である。また、EV化、脱炭素によるエンジン回り部品の減少についても、当社の幅広い加工ノウハウがあれば、影響は僅少である。

③ 再構築事業

当社は、上記のようなプレス加工、溶接、「からくり」による製品点検を実施するが、新設工場による更なる事業拡大を目論む。

製品の輸送やアッセンブリなどの効率化が図られる中、顧客工場近接地の好立地条件によるサプライチェーンの圧倒的な利便性と、取扱製品の幅広さと小ロット対応が可能であるというフットワークの軽い生産対応力は、豊田鉄工より高く評価されており、トヨタ自動車の BEV 車両 350 万台ビジョンに密に連携していく事が今後要求される。この要求に応えるべく、高い生産性と低コストな段取り替え自動化対応ロボット打点溶接機での一貫生産体制を整備し、基本となるボデー部品・足回り部品の受注に求められる多品種多回配送体制を構築し、国産 EV 車両の海外展開に貢献することで、我が国経済のカーボンニュートラルに寄与していく方針である。



新工場内レイアウト



溶接ロボット

新工場を設立することで、手狭な現工場では対応不可能な、EV 車部品製造に必要なプレス機のと

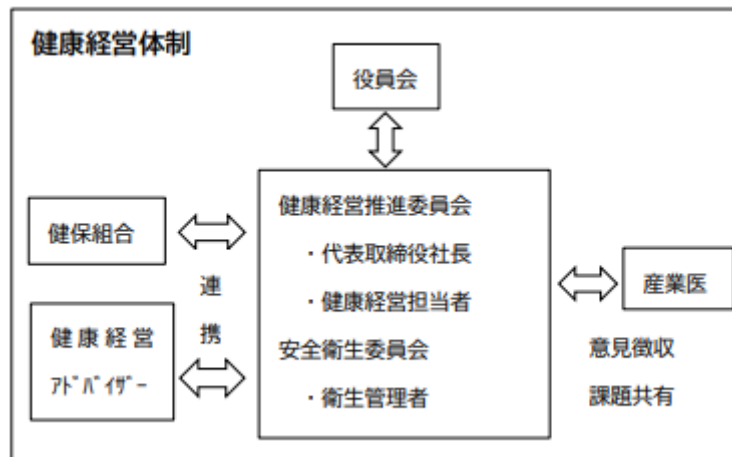
ン数のアップグレードが将来的に可能になる。トヨタ自動車の BEV 車両の国内量産化方針を背景とした、国内生産・海外仕向の車種増産体制整備にともなう豊田鉄工への業務委託増加の機会は当社にとっても大きなビジネスチャンスである。当社は設備の自動化が実現でき、これまでの深いつながりを活かして協業することで、顧客満足の最大化を目論む。豊田鉄工と外注先と隣接した立地条件の強みを活かすことで、サプライチェーンの生産性を効率化し、低コスト化を実現するとともに、今後も継続する円安ドル高の為替環境において、国内市場に留まらずグローバルなマーケットに向けて収益拡大を図ることが可能となる。これにより価格面・性能面で競合他社と差別化し、収益性を高める計画である。

3. その他の活動・CSR活動

①健康経営の取組

当社の特筆すべき活動として健康経営が挙げられる。健康経営宣言では『幸せの前提は健康であること』と定義し、「自動車部品製造を通じて地域社会に貢献していくための人財づくりとして、従業員の身体の健康、心の健康、社会的な健康を支えていくことで、幸せにイキイキと働くことができ、企業の持続的な発展につながる」という理念を掲げた。

2021年に健康経営優良法人認定を取得以降、様々な取組を実施してきた。社内体制を整備し、従業員の健康に関する活動を社長自ら実践することにより、定着させてきている。



当社の健康経営体制



当社が取得した健康経営に関わる認定

②カーボンニュートラルへの取組

当社は自動車サプライチェーンのカーボンニュートラル対応へいち早く対応し、2020年のCO2排出量を算定した。加えて、パリ協定に基づく削減目標を掲げ、継続的に算定を実施する体制を整えている。

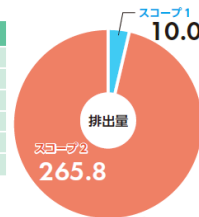
スコープ1の排出量は2020年において10.0t-CO2、スコープ2においては265.8t-CO2となっており、スコープ2での削減を課題としている。新たな設備投資に伴い電力消費量は増加する可能性があるが、売上あたりの排出量を目安に削減に取り組む。

CO2 排出量算定と削減目標

豊田プレス工業株式会社 2022年4月 代表取締役 加古 浩史

① 算定結果

運営境界	活動	排出源	排出量 (T-CO2E)	排出割合 (%)
スコープ1	特定燃焼	ガソリン	3.1	1.2
		軽油	6.9	2.5
	合計		10.0	3.7
スコープ2	購入電力の使用	電力	265.8	96.3
	合計		265.8	96.3
スコープ1+2			275.8	100.0



② 排出量削減目標

スコープ1およびスコープ2について、
2030年までに2020年を基準年として42.0%削減する。

※設定した目標水準は、SBTIの1.5℃目標に整合している。

③ 排出量削減推移

	基準年 2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	目標年 2030
排出量	275.8	264.2	252.6	241.0	229.5	217.9	206.3	194.7	183.1	171.5	160.0
削減率	0.0%	4.2%	8.4%	12.6%	16.8%	21.0%	25.2%	29.4%	33.6%	37.8%	42.0%

当社のカーボンニュートラル宣言

4. インパクトの特定

①インパクトマッピングによるインパクト分布

名古屋銀行は事業性評価におけるビジネスモデル（非開示）により豊田プレス工業株式会社の主要、関連業種を特定し、UNEP FI が推奨するインパクトマッピングからポジティブインパクト及びネガティブインパクトの分布を調査した。豊田プレス工業株式会社の業種カテゴリは多岐に渡る為、分布図は主要業種の掲載に限定する。

分布図中の「★★」は重要な影響があるカテゴリ、「★」は影響があるカテゴリを示す。豊田プレス工業株式会社の事業活動については「★★」「★」の影響をすべて検討する。川上・川下の事業活動については豊田プレス工業株式会社が直接関与できないため次の事項を検討する。ポジティブ面では川上・川下の事業でポジティブな影響の促進やネガティブな影響の緩和に豊田プレス工業株式会社の事業が貢献できることがないか検討する。ネガティブ面では川上・川下の事業において重要な影響があるか影響が及ぶ地域での対応のニーズが強いカテゴリについて、取引関係の管理などを通じて緩和に貢献できるか検討する。

分析の対象となる事業活動がインパクトマッピングの業種分類に含まれる特定の事業の場合、当該事業とは無関係なインパクトカテゴリについては検討しない。

「雇用」に関しては多くの事業においてポジティブ・ネガティブの両面の影響がある。全社的な人事戦略・雇用管理などの横断的な対応について別途検討する。

②インパクト分布図（掲載は主要業種のみ）

・川上の事業

インパクトカテゴリ	川上の事業			
	【 0710 】		【 2431 】	
	鉄鉱業		鉄鋼鑄造業	
	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ
水（入手）		★★		
食料				
住居			★	
健康・衛生		★		★
教育				
雇用	★	★	★	★
エネルギー				
移動手段				
情報				
文化・伝統				
人格と人の安全保障		★★		
正義				
強固な制度・平和・安定				
水（質）		★★		★
大気		★		★
土壌		★★		★★
生物多様性と生態系サービス		★★		
資源効率・安全性		★★		★★
気候		★		★
廃棄物		★★		★
包摂的で健全な経済	★		★	
経済収束				

当社は取り扱う部品が金属性のものが大部分を占める為、川上の事業においては主に鉄鉱業、鉄鋼鑄造業を抽出した。

水（入手）、健康・衛生、雇用、人格と人の安全保障、水（質）、大気、土壌、生物多様性と生態系サービス、資源効率・安全性、気候、廃棄物にネガティブインパクトが見られる。鉄鉱業における採掘、製鉄など過程で水質汚染が懸念され、水の質及び入手が困難になる可能性がある。これにより健康・衛生にも悪影響が波及する恐れもネガティブインパクトの要因となっている。また、不衛生や重労働のような労働環境においても改善が必要な場合もある。これは雇用、健康・衛生、人格と人の安全保障のネガティブインパクトに表れている。

・当社の事業

インパクトカテゴリ	同社事業					
	【 2591 】		【 2592 】		【 2930 】	
	金属の鍛造、プレス、打ち抜き及び圧延成形業並びに粉末冶金業		金属の処理・塗装・機械加工業		自動車部品及び付属品製造業	
	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative
	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ
水（入手）						
食料						
住居						
健康・衛生						★★
教育						
雇用	★	★	★	★	★	★
エネルギー						
移動手段					★	★
情報						
文化・伝統						
人格と人の安全保障						
正義						
強固な制度・平和・安定						
水（質）		★		★		★
大気		★		★		★
土壌						★
生物多様性と生態系サービス						
資源効率・安全性		★		★		★★
気候		★		★		★★
廃棄物		★		★		★
包括的で健全な経済	★		★		★	
経済収束					★	

当社の主要業種であるプレスによる自動車部品製造に関連性の高い業種として、金属の鍛造、プレス打ち抜き及び圧延成形業並びに粉末冶金業、金属の処理・塗装・機械加工業、自動車部品及び付属品製造業において、インパクトを検証する。雇用、移動手段、包括的で健全な経済、経済収束のカテゴリにポジティブインパクトが見られる。自動車部品及び付属品製造業における移動手段のポジティブインパクトは自動車の普及により移動手段が充実することに対してのものであるのに対し、環境に配慮した移動手段の選択肢を減らしていることへのネガティブインパクトもあり表裏の関係となっている。当社の製造する自動車部品の多くはEV車やハイブリッド車で使用される。したがって当社の成長は、上記のポジティブインパクトを拡大させながら、環境に配慮した移動手段を提供している側である為、ネガティブインパクトの影響も低減している。

移動手段の拡大におけるポジティブについては、KPI において、今後更に主流となる EV 車両等の取扱を増加させることを目標設定する。包摂的で健全な経済と経済収束については、当社はサプライチェーンにおいても重要なポジションを堅持しており、健全な経済活動を支えることにつながっている。

また、水（質）、大気、土壌、生物多様性と生態系サービス、資源効率・安全性、気候、廃棄物におけるネガティブインパクトについては、当社の工場内でのプレス加工作業や納品先への製品運搬における工場排水や CO2 排出による汚染が主な要因となっている。また、加工の際の端材や不良品等の廃棄物の発生についてもネガティブインパクトとして挙げられる。当社は、これらのネガティブインパクトに対し、廃棄物を極力発生させない為の水準を設定し、水準を下回るような意識醸成をしていく。また、CO2 の排出についても、現在取り組んでいるカーボンニュートラル化の取組として当社が発生させる CO2 の排出量を削減することで緩和を図る。

・川下の事業

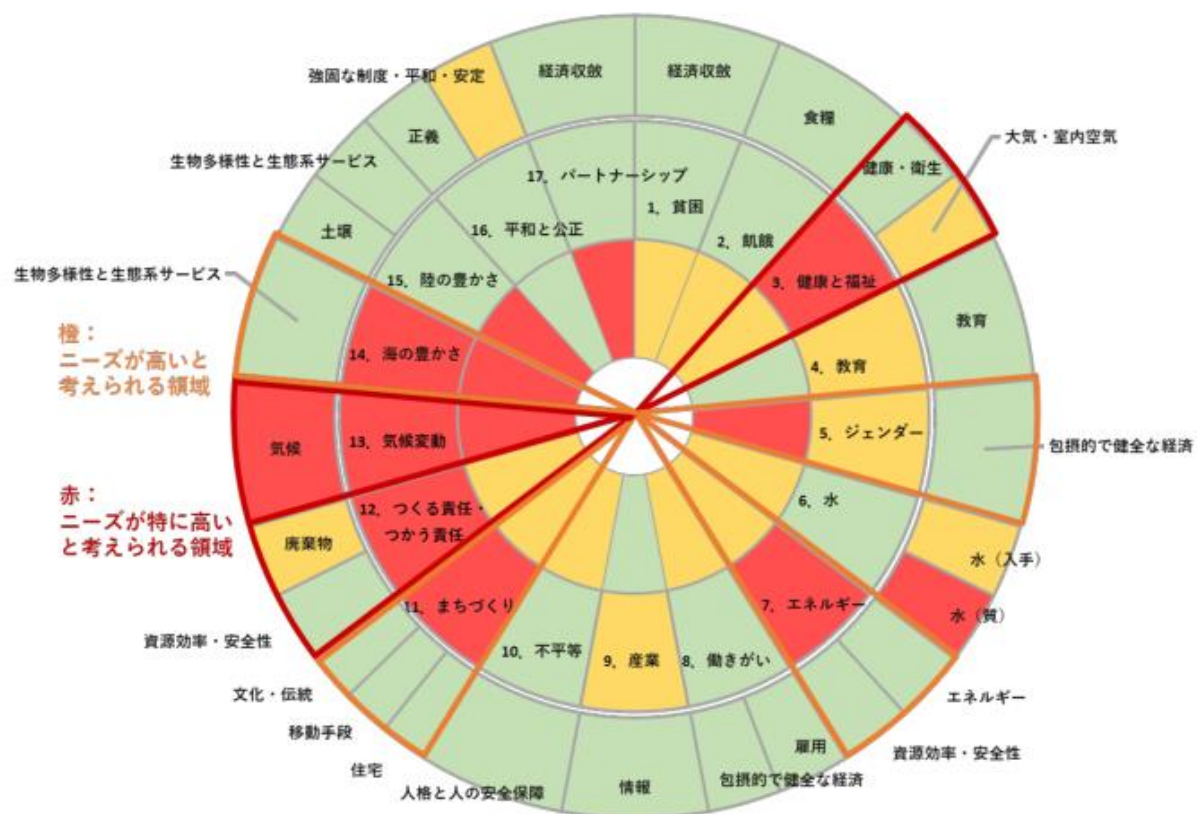
インパクトカテゴリ	川下の事業							
	【 2910 】		【 4510 】		【 4520 】		【 4530 】	
	自動車製造業		自動車販売業		自動車整備・修理業		自動車部品・付属品販売業	
	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative
	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ
水（入手）		★★						
食料								
住居								
健康・衛生		★★		★		★		★
教育								
雇用	★	★	★	★	★	★	★	★
エネルギー								
移動手段	★★	★	★★		★★		★	
情報								
文化・伝統								
人格と人の安全保障								
正義								
強固な制度・平和・安定								
水（質）		★						
大気		★		★				★
土壌		★				★		
生物多様性と生態系サービス								
資源効率・安全性		★★		★				★
気候		★★		★				★
廃棄物		★		★		★		★
包摂的で健全な経済	★							
経済収束	★							

川下の事業は大手自動車メーカー等である為、自動車製造業を中心に自動車販売業、自動車整備・修理業、自動車部品・付属品販売業からインパクトを抽出する。当社が製造・加工する部品が自動車の一部となり川下企業の事業のインパクトとして影響を及ぼすことになる。特に、当社の製品自動車部品関連において、移動手段に対するポジティブな反応は特筆すべきである。

③国内のインパクトニーズ

環境省が策定した「インパクトファイナンスの基本的考え方」における国内のインパクトニーズは下記の図によって表される。特に取り組むべき SDGs を赤色、取り組むべきであるが不十分な SDGs を黄色、その他を緑色としているものである。

名古屋銀行が特定した豊田プレス工業株式会社のインパクトと対応する SDGs のゴール「3、6、7、8、9、11、12、13、14、15」に対して、全て赤色もしくは黄色のゴールに該当するものとなっており、国内のインパクトニーズとの整合的である。



5. 測定するKPI

①EV 車、ハイブリッド車の部品製造を通じた自動車産業の発展への貢献（ポジティブ拡大、ネガティブ縮小）

項目	内容
インパクトの種類	社会面・経済面でポジティブインパクトを拡大 環境面でネガティブインパクトを縮小
インパクトカテゴリ	「移動手段」、「大気」、「気候」、「包括的で健全な経済」
関連するSDGs	 
対応方針	EV、ハイブリッド車の部品加工率増加による経済・環境貢献
KPI	・当社が販売する製造、加工する部品のうち、ハイブリッド、EV 車のみを使用するの部品の割合を毎年5%ずつ増加させる（実績開示） ・融資期間中に新しいプレス設備機械を導入しトン数のアップグレードと自動化を進め、技術力向上を図る（実績開示）

②従業員のクオリティーオブライフの向上（ポジティブ拡大・ネガティブ縮小）

項目	内容
インパクトの種類	社会面でポジティブインパクトを拡大 社会面でネガティブインパクトを縮小
インパクトカテゴリ	「雇用」
関連するSDGs	 
対応方針	働くモチベーション向上、従業員の福利厚生・労働環境の充実
KPI	・健康経営優良法人認定を継続する（実績開示） ・任意がん検診の受診率を前年比で毎年向上させる（実績開示） ・特定保健指導の実施率100%を維持する（実績開示） ・育児休暇取得率を男女ともに100%を維持する（実績開示） ・従業員1人あたり年2回の業務改善策提出の制度を整備し、インセンティブを付与する（実績開示）

③環境配慮・カーボンニュートラル実現に向けた積極的な取組み（ネガティブ縮小）

項目	内容
インパクトの種類	環境面でネガティブインパクトを縮小
インパクトカテゴリ	「気候」、「廃棄物」
関連するSDGs	 
対応方針	国際基準に基づいた温暖化対策、温室効果ガス削減、廃棄や施工不良の削減
KPI	・売上 100 万円あたりの CO2 排出量（スコープ 1、2）を 2021 年度決算の数値と比較して 2023 年度に 5%削減し、以降毎年 5%ずつ削減する（実績開示） ・返品や納品前の不良について個数管理をの徹底を整備し、従業員の再発防止意識を醸成する（実績開示）

6. インパクトの管理体制

豊田プレス工業株式会社は加古社長を中心としてサステナビリティ経営充実の為の施策を各事業部及び総務部が連携してSDGsの施策を検討・実施・検証する体制が整っている。

めいぎん PIF におけるインパクトについては、加古社長と役員会が中心となり、管理・達成へ向けた施策を実施する。

インパクト管理者

最高責任者	代表取締役社長 加古 浩史
管理部署	役員会

7. モニタリング方法

豊田プレス工業株式会社に対するめいぎん PIF のモニタリングは、インパクト管理者と名古屋銀行の担当者（法人営業部サステナビリティ推進担当及び営業店担当者）により年 1 回以上の協議を通して実施する。年 1 回以上の協議は、下記のプロセスで行われる。

項目	内容
1. 内容報告・実績開示	設定した KPI の達成度を確認する。
2. 検証・精査	達成度について開示された情報を名古屋銀行が確認する。
3. 修正の検討	達成度・進捗度を検証し KPI の修正を検討する。
4. 追加の検討	形骸化を防ぐ為、KPI の追加や削除を検討する。

名古屋銀行は上記のプロセスにおいて、自行のサポート及びアドバイスを実施する。また、モニタリング実施状況については、株式会社格付投資情報センターに対し、包括的な年次レビューを受ける。

8. 総括

豊田プレス工業株式会社の事業内容及びインパクト調査の結果、手がける事業それぞれにポジティブ及びネガティブな影響を確認した。豊田プレス工業株式会社が KPI 達成を目指すことで社内、地域社会及び地球環境全体への大きな貢献が想定され、UNEP FI の「ポジティブインパクト金融原則」、ESG 及びSDGsの観点からも十分な適合性を確認した。